



□欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	飯称)御殿場駅前SIC前ホテル	BEE	1.5	BEEランク	A	★★★★

2. 重点項目への取組み度							
重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価	凡例	よい	ふつう	がんばろう
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.7	/5		ふつう	4 点以上	3 点以上	3 点未満
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.1	/5		ふつう			
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	2.5	/5		がんばろう			
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.5	/5		がんばろう			
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)			評価	凡例	よい	ふつう	がんばろう
					4 点以上	3 点以上	3 点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目					
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。							
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)		得点			3.7		
■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ①外皮のU値を高め温熱環境の向上。 ②各室に適した開口の設置 ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤周辺環境を考慮した配置計画と色彩計画。 ⑥敷地外周に緑地を配置。 ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑦ALCとガラスワールによる高断熱化。 ⑨LED照明の採用。各室個別空調制御と高効率空調機の導入。 ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪節水衛生器具の採用。 ⑫鉄骨造採用により躯体と仕上げの分離が容易。 ⑬有害物質を含まない建材の採用。ODP=0断熱材の採用 ■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑮主風向に対する見付面積比を50%以下とした。緑化率15%以上を確保	Q-1	2	2.1	2.1, 2	①	外皮性能	
	Q-1	3	3.1	3.1, 3	②	昼光利用設備	
			3.2	3.2, 1	③	昼光制御	
	Q-2	2	2.2	2.2, 1	④	躯体材料の耐用年数	
		2.2, 2	2.2, 2	④	外壁仕上げ材の補修必要間隔		
		2.2, 3	2.2, 3	④	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		
		2.2, 4	2.2, 4	④	空調換気ダクトの更新必要間隔		
		2.2, 5	2.2, 5	④	空調・給排水配管の更新必要間隔		
		2.2, 6	2.2, 6	④	主要設備機器の更新必要間隔		
	Q-3	1		⑤	生物環境の保全と創出		
		3	3.2	⑥	敷地内温熱環境の向上		
	LR-1	1		⑦	建物外皮の熱負荷抑制		
		2		⑧	自然エネルギー利用		
		3		⑨	設備システムの高効率化		
		4	4.1	⑩	モニタリング		
			4.2	⑩	運用管理体制		
	LR-2	1	1.1	⑪	節水		
			1.2	⑪	雨水利用システム導入の有無		
			1.2, 1	⑪	雑排水等利用システム導入の有無		
		2	2.1	⑫	材料使用量の削減		
			2.1, 2	⑫	既存建築躯体等の継続使用		
			2.1, 3	⑫	躯体材料におけるリサイクル材の使用		
			2.1, 4	⑫	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		
			2.1, 5	⑫	持続可能な森林から産出された木材		
			2.1, 6	⑫	部材の再利用可能性向上への取組み		
		3	3.1	⑬	有害物質を含まない材料の使用		
			3.2	⑬	消火剤		
			3.2, 1	⑬	断熱材		
			3.2, 2	⑬	断熱材		
			3.2, 3	⑬	冷媒		
	LR-3	1		⑭	地球温暖化への配慮		
		2	2.2	⑮	温熱環境悪化の改善		
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)		得点			3.1		
■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑰各室個別空調の採用、節水衛生器具の採用、井水の積極利用、排水管の多系統分け	Q-2	2	2.1	2.1, 1	⑯	耐震性	
				2.1, 2	⑯	免震・制振性能	
			2.4	2.4, 1	⑰	空調・換気設備	
			2.4, 2	⑰	給排水・衛生設備		
			2.4, 3	⑰	電気設備		
			2.4, 4	⑰	機械・配管支持方法		
			2.4, 5	⑰	通信・情報設備		
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)		得点			2.5		
■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑱バリアフリー法移動円滑化基準相当の計画とした。 ⑳壁長さ比 149.92m/732.42m=0.204 ■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) ㉑敷地周囲への緑地、過半の設備機器をバルコニーに配置	Q-2	1	1.1	1.1, 3	⑱⑲	ユニバーサルデザイン計画	
			3	3.1	3.1, 1	⑲	階高のゆとり
			3.1, 2	⑲	空間の形状・自由さ		
	Q-3	3	3.1		㉑	地域性への配慮、快適性の向上	
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)		得点			2.5		
■室外環境(敷地内)対策 (⑳生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/㉓敷地内温熱環境の向上) ㉓敷地周囲を重点に敷地面積の15%以上の緑地 ㉒緑地の緑が連続するような外構植栽計画を行った。 ■敷地外環境対策 (⑲温熱環境悪化の改善) ⑲主風向に対する見付面積比を50%以下とした。緑化率15%以上確保	Q-3	1		⑳	生物環境の保全と創出		
			2		㉒	まちなみ景観への配慮	
			3	3.2	⑳	敷地内温熱環境の向上	
	LR-3	2	2.2		⑲	温熱環境悪化の改善	

CASBEE[®]-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 |使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	仮称)御殿場駒門SIC前ホテル 建	階数	地上5F PH
建設地	静岡県御殿場市	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	140 人
地域区分	5地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	ホテル	評価の段階	
竣工年	2020年2月 予定	評価の実施日	2019年5月20日
敷地面積	3,892 m ²	作成者	飯島誠
建築面積	783 m ²	確認日	
延床面積	3,660 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂温暖化影響チャート

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆ 100%超: ☆☆☆

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5
Q1 室内環境: 3
Q3 室外環境(敷地内): 2
LR1 エネルギー: 4
LR2 資源・マテリアル: 3
LR3 敷地外環境: 3

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.4

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.7

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.9

LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合 周辺の観光資源と連携を取る150室のホテル 幹線道路沿いに面しているため圧迫感を与えない配置計画と色彩計画 CASBEE静岡2016年版による評価結果である。		その他 特になし
Q1 室内環境 幹線道路沿いのため開口部等の遮音性能を考慮 内装はF☆☆☆☆を採用	Q2 サービス性能 各室個別空調を設置し温度管理の細分化を図る 井水の積極利用	Q3 室外環境(敷地内) 敷地周辺に緑地を配置
LR1 エネルギー 外壁の高断熱化 設備の高効率化	LR2 資源・マテリアル 節水型衛生機器の採用 鉄骨造により躯体と仕上げ材の分離解体が容易	LR3 敷地外環境 敷地内駐車場の確保 交差点・スマートインターチェンジ等の出入りに配慮した出入口配置 周囲に配慮した屋外照明計画

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される